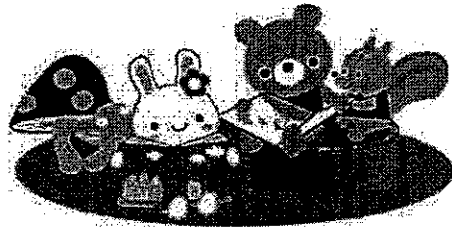


図書館だより 11月号 奈良大学附属高等学校 図書部 発行



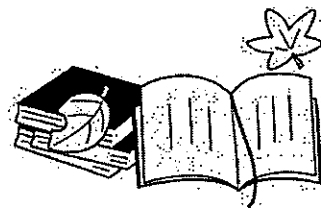
11月になり、みんなの登校中や、教室の窓から見える景色が、赤や黄色に鮮やかに色づいてきましたね。秋がしだいに深まりつつあります。太陽が早く沈み、夜が長くなるこの季節、家の中で過ごす時間も増えてきます。こんな季節こそ、ページをゆっくりとめくりながら、読書の旅に出してみませんか。

世の中の高校生は、どれくらい読書しているのかな？

全国学校図書館協議会（全国SLA）と毎日新聞社は合同で、全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について毎年調査を行っています。今年行われた「第63回学校読書調査」の結果を少し紹介しますね。

『5月の1ヶ月の間に本を何冊くらい読みましたか？』という質問では、

- 0冊・・・50%
- 1～3冊・・・39%
- 4～7冊・・・7%
- 8冊以上・・・4%

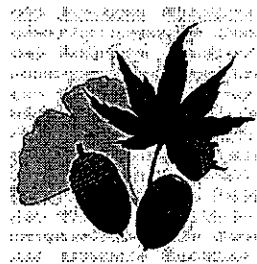


昨年同様、高校生のほぼ半分が、1ヶ月の間に1冊も本を読んでいないという結果が出ています。ちなみに、高校生の、一ヶ月に読んだ本の平均冊数（読書量）は、1.5冊です。

0冊と答えた人のうちの約6割の人の理由が、「読みたいと思わなかった」ということなのですが、その理由は、「読書よりほかにやりたいことがあるから」という答えが7割もいました。高校生ともなると、学校の授業や講習、そしてクラブ活動や塾など、学校内外の生活が多忙になるので、読書の時間をとるのが難しいのかもしれませんが、少し残念な結果のように思えます。また、スマホやタブレットの普及も、高校生を忙しくしている一因ですね。

『あなたはテレビや映画で話題になった本を読みますか？』という質問では、

- よく読む・・・11%
- 時々読む・・・38%
- あまり読まない・・・26%
- ほとんど読まない・・・24%



という結果が出ています。今年もまた、たくさんの話題の本がマスコミに取り上げられ、多数の小説がドラマ化や映画化されています。本校の図書館にも多数揃っているので、ぜひこれをきっかけに手にとってみましょう。

また、あらゆる世代を対象とした「読書世論調査」では、数ある国内の文学賞の受賞を参考にして本を買ったことがあると答えた人が25%。2015年の芥川賞受賞作、又吉直樹さんの「火花」はミリオンセラーに。恩田陸さんの「蜜蜂と遠雷」は、今年の直木賞と本屋大賞のダブル受賞をして注目されましたね。先月初旬には、長崎県出身の日系英国人作家カズオ・イシグロさんのノーベル文学賞受賞が決定しました。文学賞は、本と出会う1つのきっかけにもなりますね。

落ち着いた心で、自分と違う考えや価値観に触れることは、人生を豊かにする上でとても大切なことだと思います。本の中には、著者のメッセージが詰まっています。また、物事を考える力は言語力が基礎になります。その「言語力」は、本を読んでこそ身に付きます。「考え」の基礎となる「言葉」をどんどん充実させていきましょう。それこそが「人生の充実」につながっていきますよ。

図書委員 今月のオススメ



2年D組

僕が紹介する本は、
「西尾維新」によるファンタジー小説の
「怪物語」です。あらすじは、
「高校1年生の少年・阿良木暦は、文化祭の準備をしていた
5月のある日、ひょんなことから2年間3人に会話をした
ことが原因で病弱なクラスメイト・戦場原由希との秘密を
知ってしまうと彼女には、おおよそ体面とやらが
ほとんどなかったのだ」とある。
この作品は、2017年にアニメ化され、僕も初回は、
アニメでの作品を知りました。
怪物語は、怪物語シリーズの第一作目にあたり、現在、
「怪物語」の23作目が発表されました。
西尾維新は、この作品を「趣味で書いた」とおっしゃるが、
「趣味であり、また仕事なのだ。『うまい話』を生き様だが、
一番格好いいかもしれません」ともおっしゃっています。
まさに、その通りだと思います。



3年I組

<植物図鑑> 著: 有川 浩



～おすい～
「お嬢さん、よかったら俺を拾ってくれませんか。」
思わず拾ってしまった俺は、家事万能の
スーパー家政夫のうえ、重度の植物オ
タクだった。

とてもおもしろいのでぜひ読んでみてください!!

10月の図書館利用状況			
1年生	2年生	3年生	合計
43人	74人	152人	269人



10月は中間テスト（3年生は期末テスト）もあり、テスト勉強での図書館利用者の数が増えています。また、AO入試や推薦入試の本番を控えた3年生も増えてきています。静かに落ち着いた環境で、学力UPをはかろう。ガンバレガンバレ!! フレーツ、フレーツ、受験生!!!